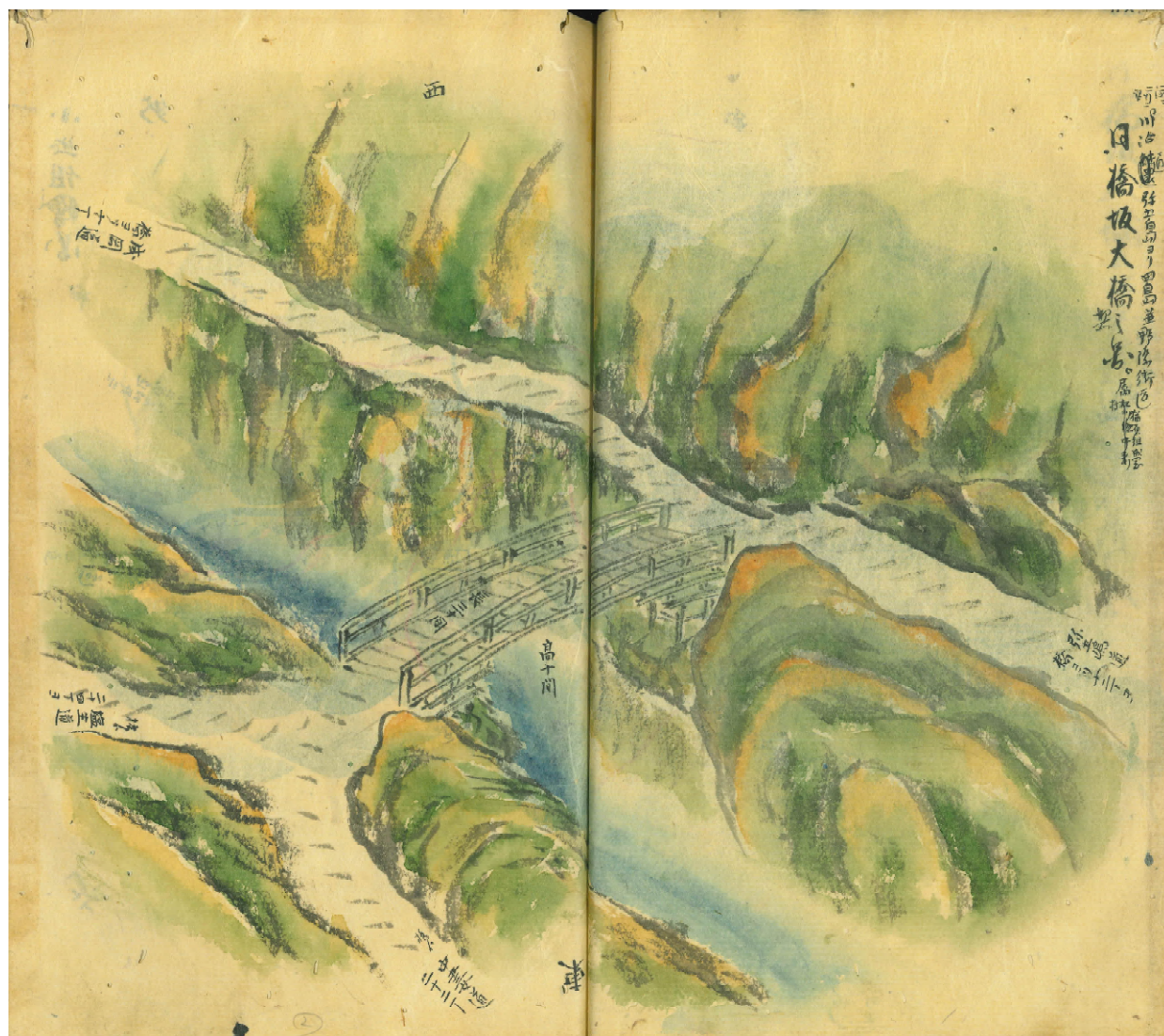




宇都宮街道の弥五島宿から松川宿に行く途中、大川を渡る橋が架かっていた場所(推定)
この場所は、大川が狭くなっていて、旧121号線に架かる橋の遺構が写っている。後方には、
旭田ダムで取水され湯野上発電所に送られる導水管が写る。

福島県立博物館所蔵



橋坂大橋之図

図書三 下郷之部 榎原組 小出組



橋坂大橋より比戸新道崩難所之図



旧国道121号線が写る。この道型は宇都宮街道と重なる可能性が高い。道型の上には会津鉄道が写る



道祖神

右
すく道(まっすぐな道)

左
問屋場道



宇都宮街道・松川宿の道標 安永元年(1772)



野際新田宿の道標 観音像の台座が道標になっている



野際邑

施主

星良右衛門

右松川

みち

左たしま

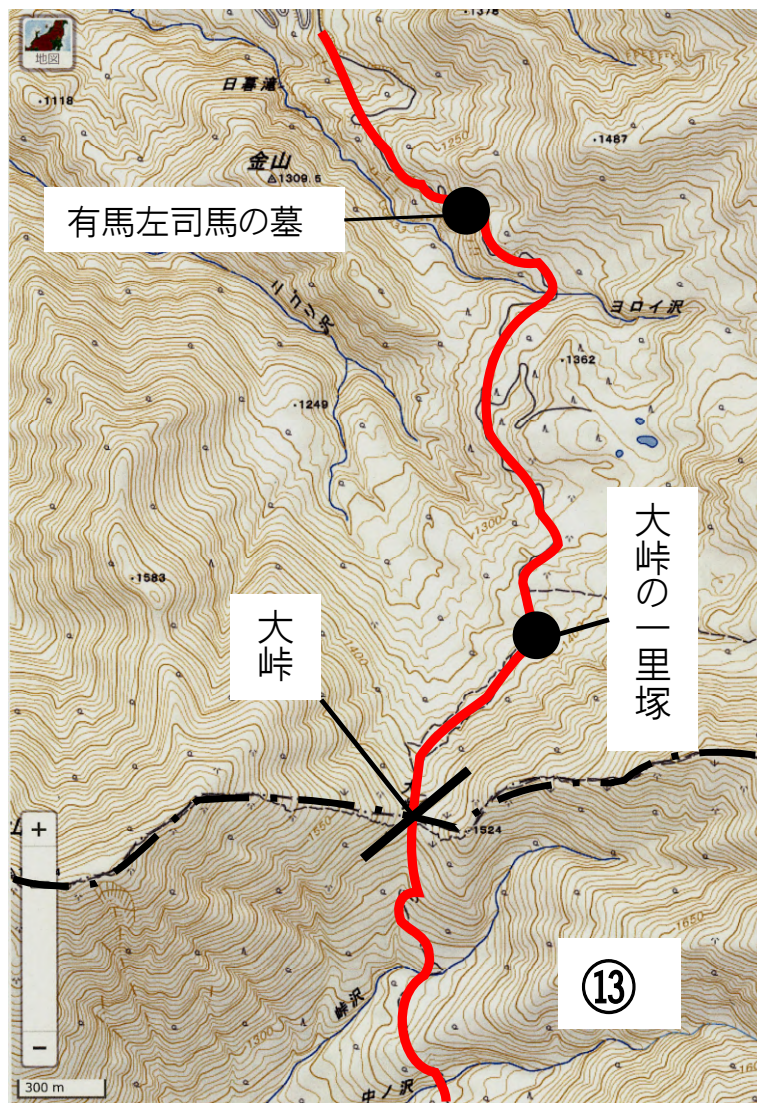
みち

享保十年(一七二五)

乙

七月七日

巳





宇都宮街道・野際新田宿



野際新田宿
戊辰戦争で焼け残った住宅



宇都宮街道 大峠道の石畳

奥州駒返坂について

会津藩は元禄8年(1695)松川通り(会津中街道)を開削した。天和3年(1683)9月1日、日光大地震により五十里湖が出現し、南山通り(会津西街道)での参勤や廻米が困難になったためである。

その道筋は、若松・面川・香塩・小塩・桑原・小出・弥五島・松川・野際・三斗小屋・板室・白村・高林・横林・上石神・山口・矢板・川崎・乙畑・氏家に至る 31里10町52間の街道である。

旧道は現道よりも東側に位置している。野際宿からつづら折りの坂を登り切り、下る坂を「奥州駒返坂」と呼んでいた。ここには元禄8年銘「奥州駒返坂」の碑があり往時を偲ぶことができる。

険阻な大峠を越えるため、時の藩主松平正容公もこの場所で駒を返し徒歩で峠を越えたと伝えられる。





会津藩士・有馬左司馬が戦死したといわれる場所に祀られている石仏

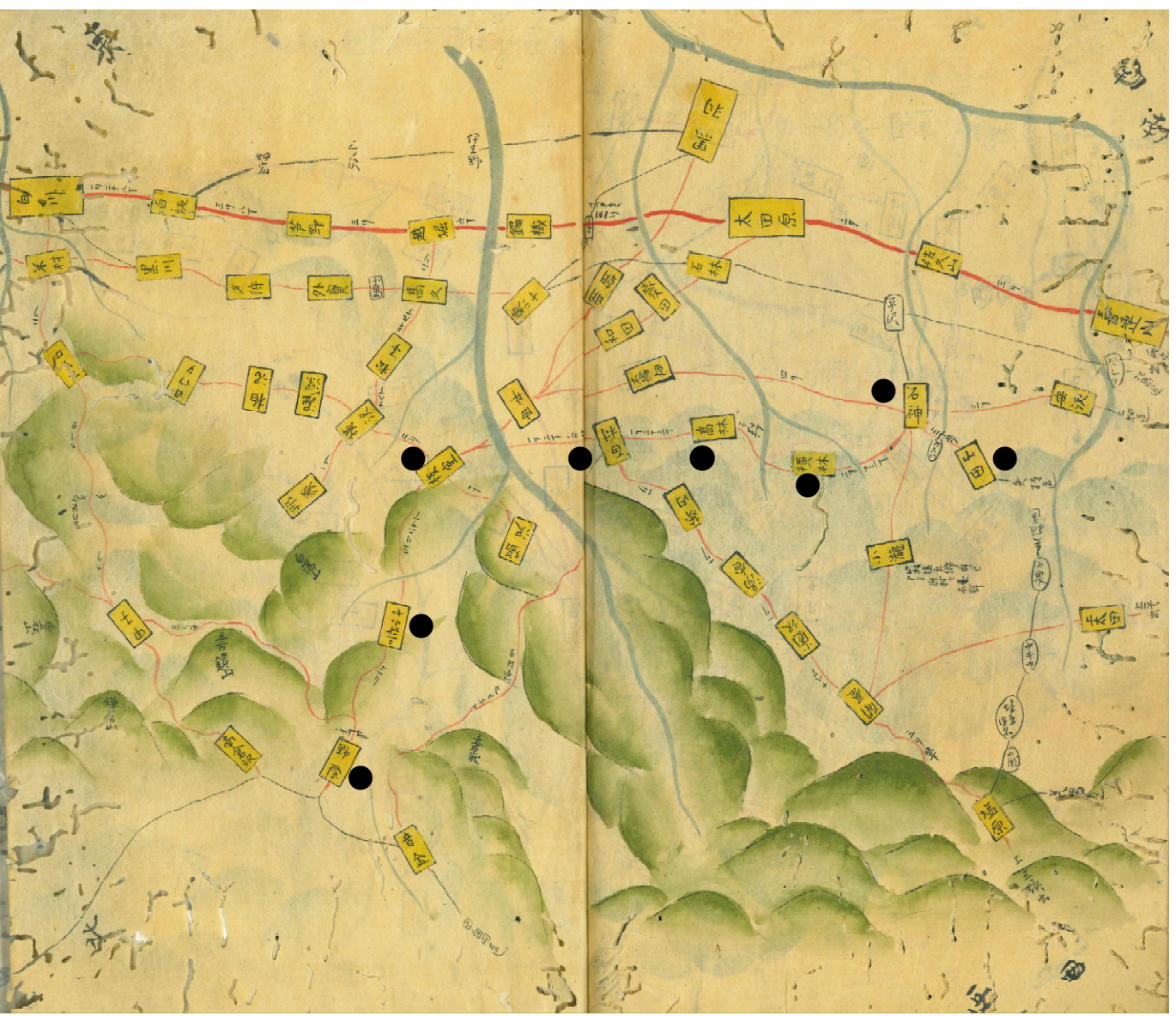


大峠の一里塚



大峠の頂上

宇都宮街道栃木側その1
 三斗小屋↓板室↓百村↓高林↓横林↓石神↓山田



図書四

宇都宮街道栃木側その2
矢板↓川崎↓乙畑↓氏家

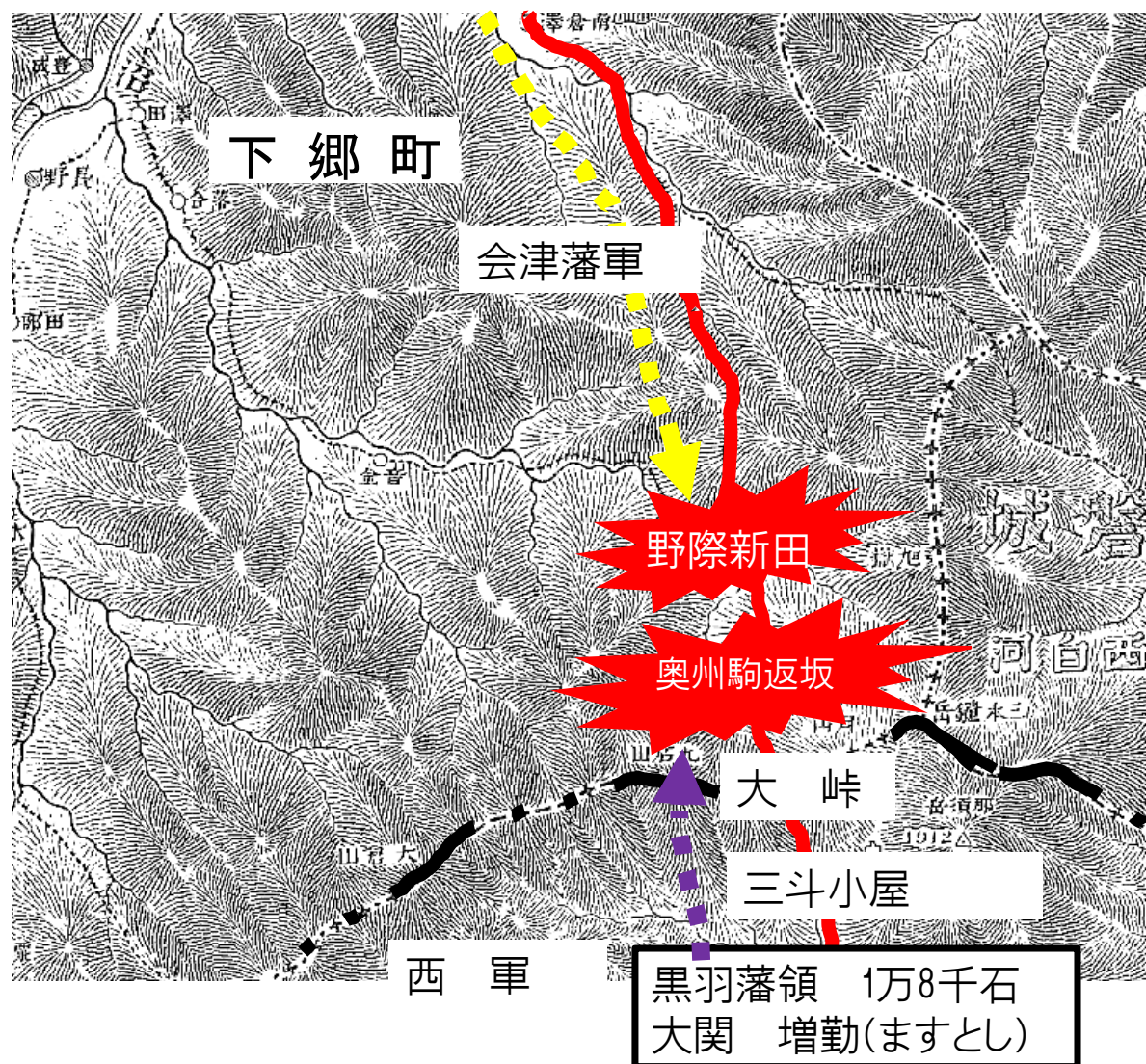


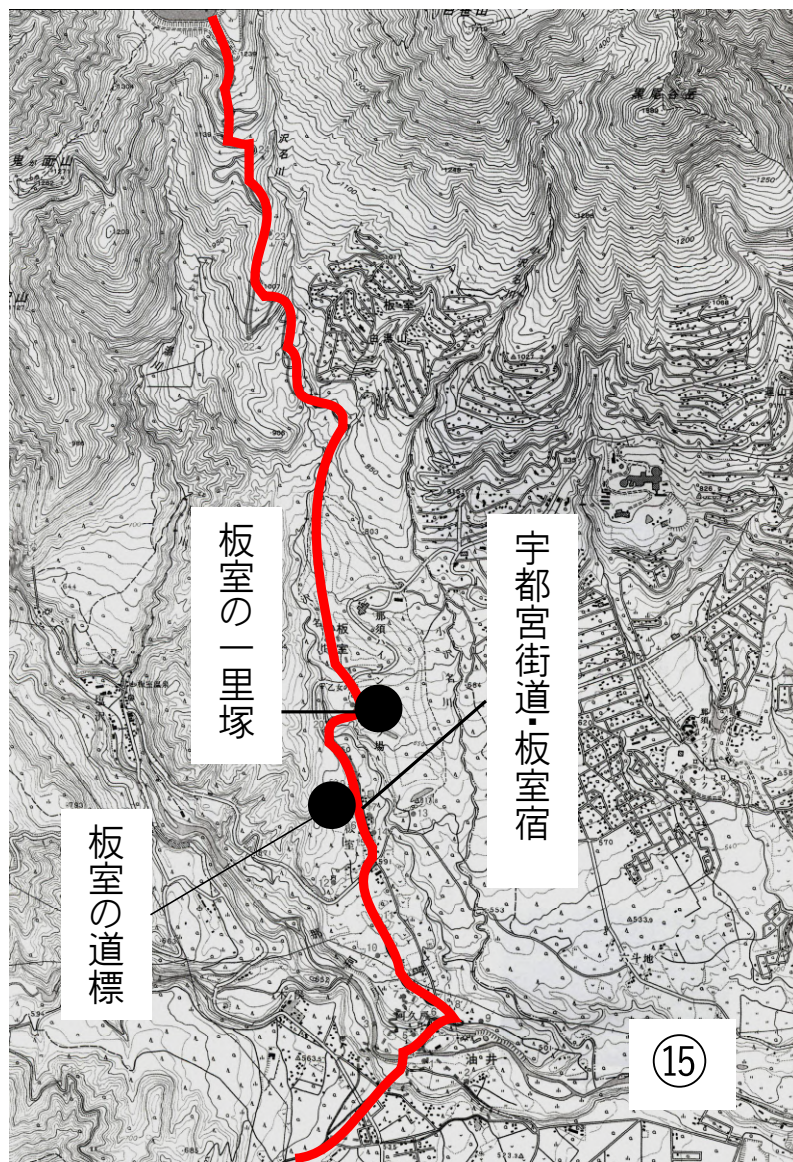
鬼怒川最上流の川港・★阿久津河岸
南山御蔵入の産物は、ここから利根川↓少し遡って
江戸川に入り江戸に向かった。

野際新田戦・慶応4年(1868)8月26日

- 西軍(館林藩・黒羽藩)は三斗小屋から大峠を越し侵攻
- 両軍は、野際新田の奥州駒返坂付近の陣地で激戦
- 西軍は、野際新田に放火する
- この戦闘で、黒羽藩兵3名戦死、負傷者3名、館林藩兵負傷者6名を出した
- 会津藩兵・青龍足軽四番隊長の有賀左司馬、同寄合二番隊長の原平太夫ら16名戦死

参考文献:大山柏著『戊辰戦史』







板室の一里塚



板室の道標

史跡 板室本村の湯本道標

〔那須塩原市指定文化財
昭和四四年七月一〇日指定〕

この道標は、会津中街道板室宿から板室温泉（ゆもと）への道しるべとして、天保七年（一八三六）に板室本村大日堂下方の分岐点に建立されたものです。伝承によれば、湯治に訪れた足の不自由な人が完治したことに感激し、同じ病に苦しむ人々のために建てたとされます。碑文からは、奥州津軽弘前品川町の「游圓」という人が地元世話人の協力により建立したこと、文字が百村・光徳寺第一九世大熊大和尚の書であることなどが読み取れます。

〔碑文〕

正面 右 會津街道 三斗小屋江三里八丁
左側面 左 ゆもと道 是從二十八丁
右側面 天保七丙申年 當所 世 □のや亀 吉 伊勢屋長兵衛
六月大吉日建焉 話 江戸屋勝右工門 和泉屋久左工門
肥後大熊書 人 大黒屋利兵衛 小松屋五良右衛門
一井屋弥 七

裏面

奥州津軽弘前品川町産游圓前年難病 一井屋
夜狂濤□四支茲□□□□□□□□ 室井新右衛門
車来入湯千度平復故乎慈比碑之建 惣邑中

那須塩原市教育委員会